



秋田大学大学院医学系研究科情報制御学・実験治療学講座

齋藤 康太

2018年2月より秋田大学大学院医学系研究科情報制御学・実験治療学講座に着任しました齋藤康太です。この原稿を書いているのは1月初旬で、いよいよこれからが本格的な雪の季節になるようです。これまで、東京、サンディエゴ、バルセロナと割合暖かいところで暮らしてきたので、初めての雪国の冬の到来がやや怖くもありますが、秋田市は海岸に近いので、あまり大雪にはならないとのこと。秋田というとユネスコ無形文化遺産に昨年登録された「なまはげ」や竿燈祭りなどの伝統行事や、秋田美人、あきたこまち、はたはた、日本酒といろいろなイメージを持たれると思います。実際、食べ物（&日本酒）が大変美味しく、これ以上の体重増を抑制するのが喫緊の課題です。秋田の街は、突然途切れて田んぼ、畑や山といった自然が広がります。車で秋田に帰ってきて、突然街並みに入っていくのは、まるでアメリカのようです。

当研究室がある秋田大学大学院医学系研究科の基礎医学研究棟（写真）は大学病院の隣にあり、秋田の街の北東の端にあります。秋田大学で1年間を過ごしてみて、教員や学生に対するケアが大変きめ細やかだと感じています。また、大学の施設としてバイオサイエンス教育・研究サポートセンターがあり、分子医学部門では、さまざまな機器を利用することができます。特に我々はラボのセットアップ中ですので、大変助かっています。現在は助教と技術専門職員と私の3名だけのこじんまりしたラボですが、今年の3月より海外留学から帰って来るメンバーも含めて体制が整いつつあります。

われわれはこれまで、高等真核生物に特有な巨大分子、特にコラーゲンの分泌機構の解析を、細胞生物学的・生



秋田大学医学部基礎医学研究棟

化学的な解析を中心に行ってきました。さらに最近、コラーゲン分泌に関与する疾患である肝線維化メカニズムの解明にも、分泌の観点から取り組んできました。今後は、医学系研究科に着任したことを機に、巨大分子分泌機構の破綻が原因となる疾患である線維化や脂質代謝異常症などの病理解明、治療法開発などの疾患生物学の方向へも、臨床の先生のお力を借りることで発展させていけたらと考えております。秋田大学大学院医学系研究科は、修士課程・博士課程を含めて、他大学からの進学なども可能です。われわれの研究に興味のある大学院生がおられましたら、お気軽にご連絡ください。